

佐久ゆうき合同会社

～産地紹介～



Saku Organic farmers

令和6年2月2日
長野県有機農業推進
プラットフォーム研修会





生産者全員が 有機JAS認証を取得



生産者16名の平均年齢は40代！
(取引先からは長く付き合える産地として評価されています)

そのほとんどが新規就農！

佐久ゆうき合同会社の運営



* 役員会は午前0時過ぎることもあった…
(今はオンライン)

* 全体会議では、
激しい議論が…



・会の運営を生産者自らが行う

地元市場(R&Cながの青果)とタッグを組む



- ・プロスタッフによる連絡対応
(受発注、代金回収)
- ・充実した市場流通網で配送の手配
- ・豊富な販路チャンネルを活かして取引先を拡大
- ・専門施設を利用できる

生産者を募集しています！

佐久ゆうき合同会社は各経営スタイルを尊重し、栽培規模や栽培品目を強制、強要する団体ではありません。
それぞれの多様性を認め合い、集まることで、販路や物流を共有し、各自の目指す経営をサポートできればと考えています。

前職のあるものも多く、その経験や知識を持ち寄り、会社の運営に役立っています。
誰もが輝ける場所が佐久ゆうき合同会社にはあります。

多様な複数の農家のもとで研修を受け、自分の目指す経営を見つけるのもアリだと思います。

佐久ゆうき合同会社の扉はいつもオープンです。
気軽にお問い合わせください。

<問い合わせ先>

佐久ゆうき合同会社 執行役員 田嶋克次

電話：090-6025-7353 Email:katsuji@yc4.so-net.ne.jp

可能性は無限大

むげんの会

加工用トマト栽培プロジェクト



自分が住み続けたいと思う町づくりに「この指とまれ」の手をあげる

きっかけは 2021年辰野町ど真ん中みらい会議

食料
エネルギー **自給自足** できるまち

私が住み続けたい辰野町

みんなでつくる自給自足town
自然と共生する農ある暮らし

加工用トマトの有機栽培にチャレンジしてみよう！



秋山久子(地域おこし協力隊)

むげんの会

活動を知ってもらう



仲間づくり

豊かな自然と調和した暮らし

中山間地域は資源が豊富

- 自然環境豊かな町。面積の86%山林
- 自給自足の暮らし ⇒ "半農半X"(兼業農家)
- 地域で助け合って農業ができる環境(集落営農)



山菜
松茸
雑きのこ

美味しい水

ホタル 水田
米 農作物

今のままの辰野町がいい！

しかし

山・農地が荒廃していく...

農業担い手の発掘は緊急の課題！

せつかく農地があるのだから、農業に取り組もう！

- 農ある暮らし ⇒ 自然と共生するライフスタイル 有機農業にチャレンジ
小規模家庭菜園
- 農業って楽しい！自分が育てた作物を自分で食べる喜びを共有したい。
自家製〇〇をはじめよう！

地域循環型農業に取り組みたい



有機農業の担い手をどうやって増やしていくか？ = 農業に携わるきっかけづくり

チャレンジするために ⇔ リスクを低く

- 自分のペースで取り組める農業(**小規模**) 多様化するライフスタイルに対応
小規模農家の集合体で産地化に取り組んでみる

- 苗を**無償**で配る



- 初心者でも取り組める
有機栽培の講習会と、グループみんなと一緒に栽培観察していく



- 失敗してもいい、**出荷は強制ではない** (自家消費OK)

なぜ？加工用トマト栽培なのか？



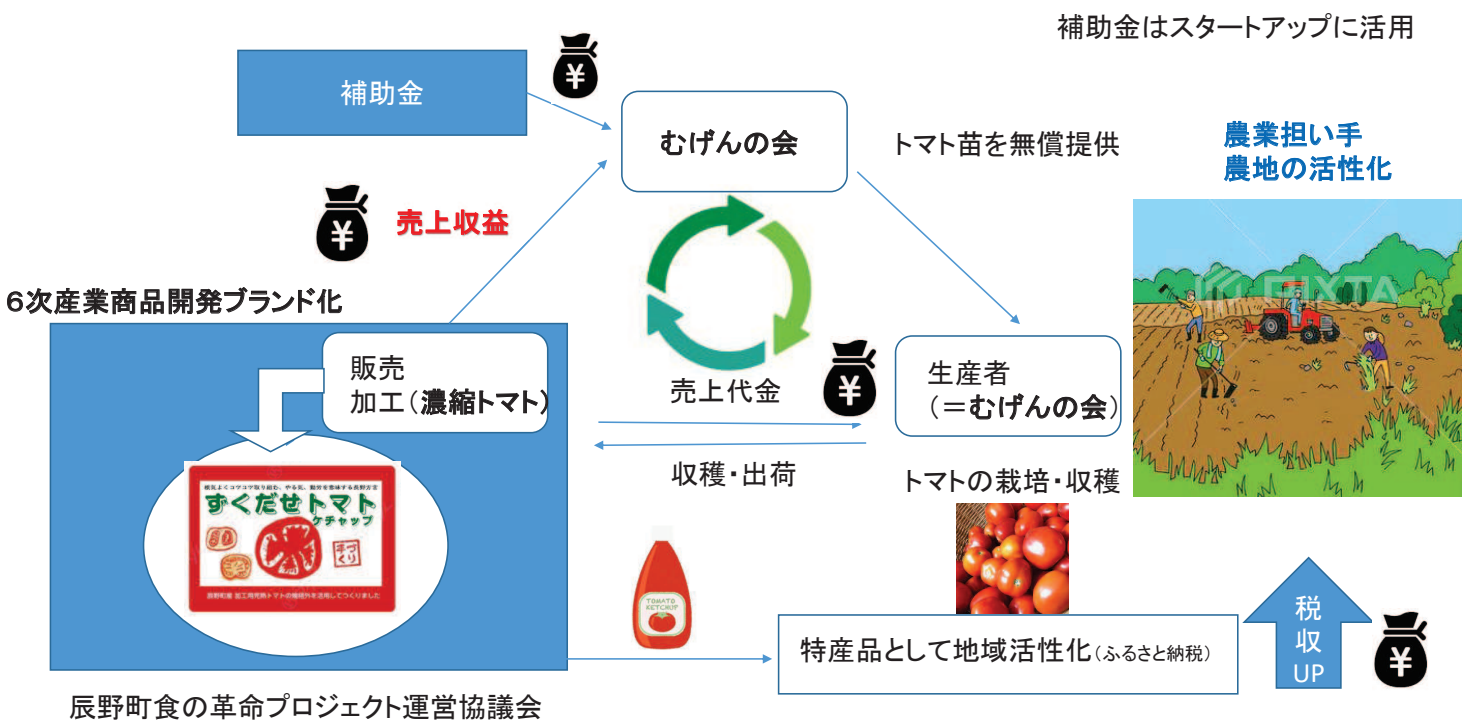
- **敵地作物** 1960年代～長野県全域、辰野町でも多くの生産者が取り組んできた馴染みある農産物
- **需要のある作物** =収入が安定⇒食品加工品製造会社の全量買い取りの仕組み
- トマト栽培は農業初心者向きではないけれど、**栽培マニュアル**が確立している
支柱・芽かき作業が不要⇒栽培工程がシンプル
- **加工専用品種のトマト**は露地・地這え栽培。
- 夏の時期に比較的**短期間**で収穫できる作物



規格外加工用トマトのブランド化 地域特産品づくりの取り組み



事業化することで持続可能になる





地域でトマトを食べる機会をつくる

トマトピューレ(濃縮トマト)サンプル無償提供



町内の飲食店



学校給食



トマトケチャップ
のワークショップ

辰野産トマト100%使用
手作り
トマトケチャップ

「もったいない!」の精神で規格外のトマトも
全てに無駄にしない、手作りのケチャップです。

すくだせトマト
ケチャップ

つながる ひろがる めぐる



北アルプスオーガニックプロジェクトでは
信州らしい持続可能な循環型社会を構築していく活動をしています

北アルプスオーガニックプロジェクトとは

「オーガニック」
という言葉に集まってきた

- 有機農家／飲食業／会社員／環境保護団体運営／自営業／市議会議員など
- 農業・家庭菜園をやっているメンバーもやっていないメンバーもいる
- 地域も大町市を中心に白馬、安曇野、松川など北アルプス広域の30代から50代まで、地元育ちと移住者が一緒に活動する多彩なチーム



北アルプスオーガニックプロジェクト



グループの活動目的

オーガニックな心地よさで
人と農と食のつながりをひろげて
大町の地元肯定感を高める



何するの？

ハカリウリマルシェなどのイベントで人と人が
つながる場をつくります

天然由来の環境再生型農業を勉強しながら実践します
無理のない有機給食のあり方を考えます
それぞれの活動をSNSで発信していきます



メンバーの願い

自分から家族、地域へと心と体を健康の環をひろげたい
グループの活動目的につながる色々な考えを受入れたい
食だけじゃない、地産地消とオーガニックを広めたい

主な活動

ハカリウリ
マルシェ in 信濃大町

人と自然を優しさでつなごう

袋や瓶などの入れ物を持参ください

計り売りから、持続可能で
信州らしい生活を考えます

詳細はFacebookページをご確認ください
北アルプスオーガニックプロジェクト





信濃おおまち
みずのわプロジェクト

「ハカリウリマルシェは」 大町市SDGsみずのわプロジェクトの連携事業

令和4年度は講演会と大町市堆肥センターを紹介

生紙使用

第一回ハカリウリマルシェ記念講演会

「大町市でもはじめよう！ エコライフとゼロカーボン」

開場 10:00
 第一部 10:30～「ゼロカーボンの鍵は微生物と土」吉田太郎氏
 第二部 11:20～「生ごみ堆肥化のもつ可能性」
 ～八坂堆肥センターの取り組み～ 竹井植氏
 第三部 11:55-12:30 吉田氏と竹井氏を交えて質疑/意見交換会

日時：6月18日（土） 10:30-12:30
 場所：サン・アルプス大町 2階大会議室

吉田太郎氏
 1961年6月7日生まれ、A型。双
 子座。学生時代にバールを訪
 れ有機農業で研究したことか
 ら持続可能な農業に関心を持
 った。長野県では有機農業の理
 念に従事。この3月までに全米通
 関。これまでの経験を活かし、
 有機農業と関連する国内外の情
 報を発信することを目標してい
 る。最新刊に「土が変わるとお
 産物も変わら」がある。

竹井植氏
 1961年9月3日生まれ、A型。お
 とも座。3児の父親で6歳。45
 年間土木の構造物設計コンサル
 ターリングに従事。各々のマルシェ
 を運営させる為自然農法で野
 増した野菜で完売させたことを
 きっかけに微生物を利用した理
 論事業に転換。現在は八坂堆肥
 センター技術責任者の傍ら、食
 品リサイクル(資源循環)、水
 環境・農産環境をコンサル・改
 善・管理を行っています。



令和5年度は映画上映/いすみ市鮫田さんを招いて 講演会/市長や行政を交えた昼食懇談



すみたい田舎ランキング
5年連続1位を獲得した有機農業先進地

いすみ市に学ぶ
「地域内循環」 **参加無料**

千葉県 いすみ市 農林課
有機農業推進班 班長
鮫田 晋さん

会場 サン・アルプス大町
2F大会議室

2023.09.23 (日)



・令和5年度有機農業の体験会・勉強会

- 6月無農薬米の田植え体験
- 7月有機JAS農家視察勉強会・収穫体験
- 8月ぼかしと生ごみ活用のワークショップ
- 9月大町市堆肥センター視察後、小麦畑で堆肥散布作業体験会
- 11月市内小学校で食農育出前授業・小学生と小麦麦踏体験
無農薬小麦の給食提供
- 1月【食と農を繋ぐ体験会】大町産有機米で麴作り昔の大町の稲作
8mmフィルム上映会・農村生活マイスターと座談会



大町市の有機給食

●令和4年2月大町市美麻小中学校で有機米提供

→小学生の子供がいるメンバーで教育委員会と意見交換会

●大町市こまくさ幼稚園での有機給食

令和5年5月・12月無農薬・無化学肥料小麦全粒粉

令和5年9月有機JASアスパラ

令和5年11月から毎月 有機JAS米

→メンバーから近隣有機農家・無農薬栽培農家の情報を提供

●大町市北小学校での有機給食

令和5年9月で有機JASアスパラ提供

令和5年11月無農薬・無化学肥料小麦全粒粉

→メンバーと栄養教諭の情報交換協力関係により実施



来年度の活動



HAKARIURI_IN_OMACHI

再生紙使用

2024年
9月28日
土曜日開催!!

はかる めぐる つながる
ハカリウリ
マルシェ2024 in 信濃大町

人と自然を優しさでつなごう
袋や瓶などの入れ物を持参下さい
はかりうりから持続可能で優しい生活を考えます

ハカリウリ
マルシェ

詳細は！QRのフェイスブック/インスタグラム
をご確認ください
北アルプスオーガニックプロジェクト

この事業は、大町市ひとが輝くまちづくり
事業の補助金を受けています

大町市堆肥センターの堆肥を使用した農産物のブランド化



地域内循環ができている持続可能な大町を発信していく！

農林水産省サステナアワード2023で 消費者庁長官賞受賞しました



賞	タイトル	受賞作品の所属・グループ名（都道府県）
農林水産大臣賞	畜産の未来を育む 産直はなゆき農場有機牛	コープデリ生活協同組合連合会（埼玉県）
環境大臣賞	「地域でつなぐサステナブル」	株式会社櫻村ふぁーむ（茨城県）
消費者庁長官賞	持続可能な循環型まちづくりへの挑戦	北アルプスオーガニックプロジェクト（長野県）
AgVenture Lab賞	ベーカリーが応援する環境再生型農業の取組	アグリシステム株式会社（北海道）
脱炭素賞	サンブラザのSDGsへの取り組み	株式会社サンブラザ（大阪府）
生物多様性保全賞	若狭の海の恵みをいつまでも。『海もぐら』	海もぐら（福井県）
地域資源循環賞	農と人が育む持続可能な未来	オーガニックファーム所沢農人（埼玉県）
支え合い賞	棚田で食育を！一緒に食べてなかよく優しく	NPO法人棚田LOVERS（兵庫県）
優秀賞 （五十音順）	地球を冷やす野菜 クルベジについて	北総クルベジ（千葉県）
	三重の多気で300年続く伊勢守を守りたい	株式会社あかり屋・下津醤油株式会社（三重県）
	大和大学社会学部SDGsへの取組	大和大学社会学部（大阪府）